

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

| | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

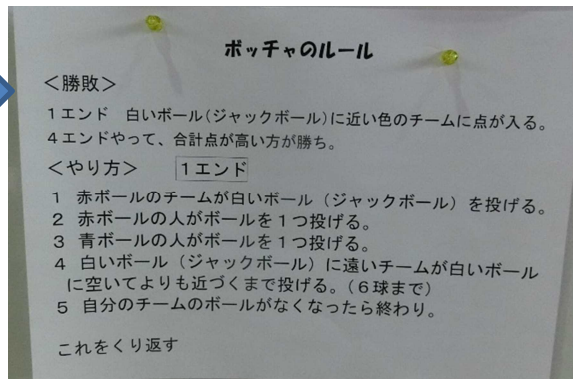
道府県・政令市名【静岡県】

学校名【 裾野市立深良小学校 】

| | |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ | I ・ II (III) IV (V) (複数選択可) |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 裾野市立深良小学校 ・5年1組 22名、 5年2組 22名 ・屋内スポーツクラブ 6年生8名、5年生1名、4年生2名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳科) ※5年生がクラスごと、道徳「相互理解、寛容」の発展としてボッチャを体験。 ② 行事名 () ③ その他 (クラブ活動) ※屋内スポーツクラブの活動として1時間、ボッチャを体験。 (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | ・重度の障害がある人でも、工夫したり発想を変えたりすることができるスポーツであり、様々な可能性が広がることを理解する。 ・集中力、投球技術、戦略性、チームワークが必要とされるボッチャを体験することで、パラリンピックスポーツに興味を持つ。 |
| 5 取組内容 | ボッチャを体験することで、少しでも共生社会への理解が深まるような取組ができないかと考え、配当される予算で小学生高学年がボッチャを体験できる用品を購入していただいた。 取組としては、5年生がクラスごと、道徳「相互理解、寛容」の発展としてボッチャを体験。また、屋内スポーツクラブの子供たちがクラブ活動の一環として体験。 クラブ活動の様子については活動の様子を撮影したので、裏面の画像をご覧ください。 |



ルール説明の様子



ボッチャのルール

＜勝敗＞

- 1 エンド 白いボール(ジャックボール)に近い色のチームに点が入る。
- 4 エンドやって、合計点が高い方が勝ち。

＜やり方＞ **1 エンド**

- 1 赤ボールのチームが白いボール(ジャックボール)を投げる。
- 2 赤ボールの人がボールを1つ投げる。
- 3 青ボールの人がボールを1つ投げる。
- 4 白いボール(ジャックボール)に近いチームが白いボールに空いてよりも近づくまで投げる。(6球まで)
- 5 自分のチームのボールがなくなったら終わり。

これをくり返す



活動の様子

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>6 主な成果</p> | <p>5年生の子供たちの感想から、障害者スポーツにふれることで、パラリンピック競技への関心が高まるとともに、障害者が抱える問題を考えるきっかけとなったことが分かった。</p> <p>クラブ活動においては、ボッチャの体験を通して、スポーツを楽しむ心の育成へとつながったと思う。たまたま当日、3年生がクラブ活動を見学する日で、3年生の子供たちにもボッチャを少し紹介することができたので、パラリンピック競技に触れるきっかけとなった。</p> |
| <p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <p>子供たちがやって楽しいと感じられるようにすることを第一の目的とした。そのため、ルール説明を短い時間で済ませ、ゲームの時間をできるだけ確保するようにした。</p> |
| <p>8 主な課題等</p> | <p>事業計画書では、6年生も授業の中で実施する予定だったが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、授業時間の確保が難しく、6年生においては実施できなかった。総合的な学習において福祉をテーマとしている学校でないとならば来年度以降も時間を十分に確保することは、難しいと思う。</p> |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p> | <p>来年度も新型コロナウイルスが終息していない中での実施は難しい。今年度並みの取組でよければ実施にむけて検討させていただきたい。</p> |